

「子どもたちへのギフト 聖書の教育」

～子どもたちが従順を学ぶために重要な資源を与える 物質ではなく内面である～
申6：5～15

聖書の中にサウルとダビデという二人の王様が出てきます。二人とも選ばれて王様になりましたが、二人の王の決定的な差は、サウルは人を恐れましたが、ダビデは神を愛し、神を見続けたということです。任された子どもたちの祝福を考えた時、どちらのようになったらよいかは明らかです。そして子どもたちの祝福は私たち大人に責任があります。

(申6：5～15)

神様がダビデを選んだその理由が大切です。それがこの箇所です。子育ては教会でしていく大切なテーマです。子どもたちには子どもたちの世界があり、そこで起こっていることを自分たちの中で解決していく資源を私たち大人が与えていく必要があります。だから自分の子どもだけ叱るというのは違うし、大人がその世界に越境して入ってはいけません。ではどんな方法がよいのでしょうか。それは、神様が私たち人間にした方法です。神様は私たちの全てを見て理解しているのです、その時の行為を叱るのではなく、私たちの本来のものから逸脱している部分を、その時にした悪を利用して整え、練ろうとしてみてください。しかし、大人はその子の背景を見ずに、行いを罰し、制裁を与え「お前はだめだ」としてしまふのです。そうしてしまうとサウルのように神ではなく、「人」を恐れるようになってしまいます。

(ピリ4：4～9)

パウロが語った箇所です。パウロは自分に倣ってこうしなさいと言っています。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(6、7節)そして神の願いはここにあり、教育はこの状態を与えることです。つまり聖書では「われわれに似るように創った」と言われた私たちの姿が、いつも喜び、平安である状況であることを信じて生きることを子どもたちに伝えることが「教育」なのです。私たちは物質を与えようと思いますが、これは違います。聖書の教育はプラスではなく「マイナス」なのです。なぜなら、子どもたちが大人から「自立」することが大切だからです。「それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。」(創2：24)日本では「子は鎧」と言いますが、そうではありません。夫婦は子どもを育てるためにいるのではないし、親の夢をかかえるために子どもが何かをするわけではありません。あなたに託された夢はあなたで完結していくのです。だから、

①子どもが両親に対してもつ愛、従順、信頼がキリストに結びつくように導く

(1) 相対的に絶対的の真理を見る

子どもがこの世の悪と聖書の真理を照らし合わせて何が正しいかを判断できるように教える必要があります。だから真理が分かっているだけではいけません。教会の中にも真理とそうでないものがあります。私たちは赦された罪人です。正しいことは知ってはいてもできない「偽善者」です。「教会ではいい、でも家では・・・」これは二面性です。二面性の親を見て育つ子ども当然二面性をもつようになるし、特に思春期(反抗期)になってくるとそんな両親を見て「どうなんだろう・・・」と思うようになります。私たちの教育が子育てなのか飼育なのかを考える必要があります。ペットは自立する必要はありませんが、子どもはそうではありません。20歳までに真理を学べるかどうか大切です。そのためには親自身がこの世の悪と聖書の真理を相対的いつも悩みながら探す姿を見せるしかありません。

(2) 大人・両親の敬虔な姿

神を敬うということです。自らが失敗した時に神の前に出て戻ろうとする姿が「敬虔」です。ダビデもこれを大切にしていました。

(3) 聖書的知識に基づく智恵

この世の智恵をもっている人はたくさんいますが、これらは近年、人々が構築した概念です。それは文化が変わればズレていきます。だからこそ、真理に基づいた智恵が必要です。

(4) 系統立てた指導

夫婦でありながらまた教会という組織でありながら、これが

とても弱いのが現状です。「あの人はよいと言うがこの人はダメと言う。」「今日はよいと言うが、明日になったらダメと言う。」これではいけません。だから真理に基づいた価値観をもっていないと教えることはできません。また夫婦が互いの悪口を言わないことも大切です。

(5) 時を見定めた関わり

親は子どもにすぐにあれこれしたくなりますが、それではいけません。それではペットです。子育ては「マイナス」です。

子どもたちの親に対する従順はいつしかなくなります。だからその時に神に継承されないと遅いのです。子どもたちがあなたを信頼し愛してくれているうちにしないといけません。それぞれの子どもたちがどういうタイプかを見てやることも大切です。

②ステップ2

(1) 賢い選択を選べるようになる

これが自立の瞬間です。賢い選択ができるようになるから「鍵」が渡せるのです。失敗もあるでしょうが、子どもの頃の失敗は大きなことにはなりません。その時、頼れるのが親であればいいのです。大切なのは、子どもたちが選択できるようにさせることです。

(2) 自分の責任、約束を守る

鍵を持たせるには「約束を守る」ということが条件です。だから大人がまず約束を守る必要があります。大人も失敗したのであればその時は謝らなくてはなりません。責任をとることは「悔いて改める」ということが伴います。

(3) 他者に優しいものになる

自分の為を怒っているのか他人の為なのかを判断しなくてはなりません。私たちは子どもに「優しくなりなさい。」と言いますが、自分はできているのでしょうか。車の運転は本来、誰もしてはいけないことになっていいますが、免許を持っているものだけがしてもよいと「許可」されています。それと同じように、私たちが大人として生きられるかどうかの許可は神様が与えています。本来誰もふさわしい人なんていないのです。だからこそ子どもたちにもこの要素を見出させていく教育をし、「鍵」を与えていかななくてはなりません。

③子どもを幸せに育てる＝安心である。

(創2：24、12：1)

(1) 夫婦鎧親子

夫婦と親子ではどちらが優先でしょうか。「子どものために」という人がいますが、そう言って教育すると絶対にうまくいきません。夫婦は本来、それぞれに与えられた役割を助け合うために与えられています。だから聖書の約束で夫婦が手を離すようにはなっていません。だから「鎧」なんてことはないのです。夫婦が一つになって初めて、子どもたちは安心して独立していきます。「この家に生まれてきてよかった。」と思わすことが大切です。私たちが子どもたちに与えられるものは「安心」しかありません。夫婦・教会が1つになって真理をもちましよう。

(2) 子育ては子離れ

子育ては「マイナス」とありましたが、どうやって減らしていくかです。3歳まではほとんどしてそこから減らしていくのです。

(3) 男女性別役割

男性は絶えず展望するのが役割です。その時だけの問題を見るように創られていません。一方女性は共感と受け取るのが役割です。だから互いの役割があることを理解しておくことが大切です。父親はいざという時に出てくればよいのです。

子どもたちの祝福の為にぜひこれらをやりましよう。そうでなければ「子どもたちを幸せにしたい。」と口では言いながらその祝福を奪い「ペット」にしてしまいます。子どもたちの祝福の責任は大人にあります。子どもたちが安心を得て、実を残す人生になるよう、一人ひとり行っていきましょう。

(要約者:岩崎 祥誉)

(2019年5月5日)